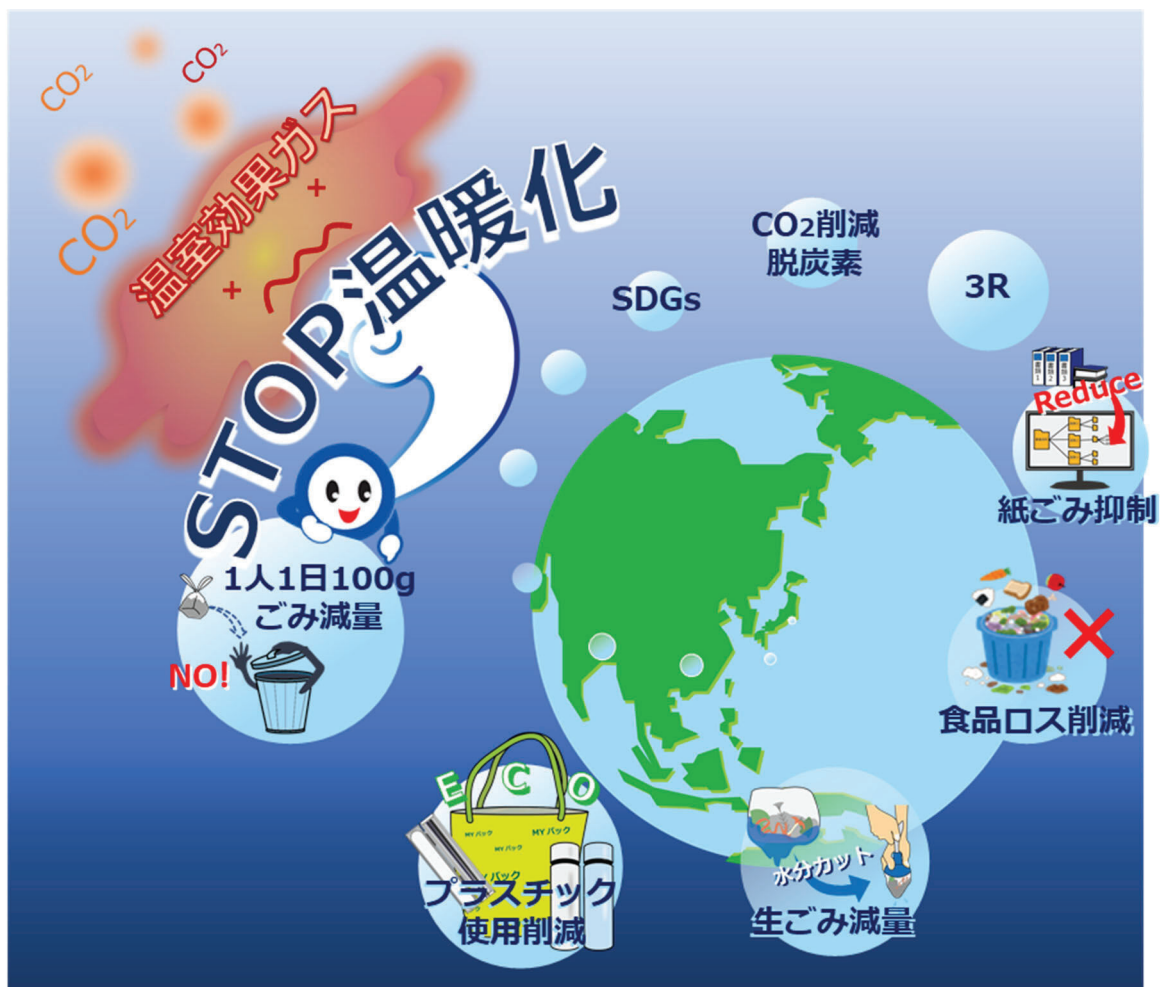


千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画

減らそう 1人1日100g！ 止めよう 地球温暖化！



2023（令和5）年3月



計画の策定にあたって



千葉市では、2017（平成 29）年 3 月に策定した「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」に基づき、市民・事業者の皆様のご協力のもと、全員参加型の 3 R の取組み等を推進することにより、2015（平成 27）年度には 36 万 7 千トンであった市内のごみの総排出量が、2021（令和 3）年度には約 8% の削減となる 33 万 7 千トンまで減少するなど、前計画で目指した姿を概ね達成することができました。

一方、前計画策定から 6 年が経過し、国内外における社会情勢は大きく変化しています。廃棄物・資源循環の分野においても、2050 年の脱炭素社会の構築や SDGs（持続可能な開発目標）との整合を踏まえた取組みに加え、激甚化する自然災害や感染症に対応し得るごみ処理の安定性・安全性の確保など、新たな課題への適切な対応が求められています。

このような状況を踏まえ、一層のごみの減量と再資源化の実現を目指し、「みんなでつくり 未来へつなぐ 循環型社会 ～持続可能なまちづくりと脱炭素への貢献～」を基本理念とする新たな「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」を策定しました。

新たな計画では、「発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）のさらなる推進」、「適正なごみの排出・分別と再資源化（リサイクル）による資源循環の促進と焼却ごみの削減」、「安定と効率性を兼ね備えた強靱なごみ処理体制の構築」の 3 つを基本方針に、様々な視点から施策を展開してまいります。

また、大きな特徴としては、温室効果ガス削減の視点から数値目標を整理し、ごみの減量・再資源化に加えプラスチックごみへの対応を取り入れるなど脱炭素を強く意識した点や、SDGs 等の面からも一層の取組みが必要な食品ロス対策について、「千葉市食品ロス削減推進計画」として整理し内包した点が挙げられます。

本市は、2021（令和 3）年 1 月に市制 100 周年を迎えましたが、100 年先の未来に良好な生活環境を引き継いでいくため、市民の皆様、事業者の皆様におかれましては、新たな計画のスローガンである「減らそう 1 人 1 日 1 0 0 g！ 止めよう 地球温暖化！」の実現に向け、一層のご協力をお願い申し上げます。

おわりに、本計画の策定にあたり、多くの貴重なご意見・ご提案をいただきました「千葉市廃棄物減量等推進審議会」委員の皆様をはじめ、関係各位に厚くお礼を申し上げます。

2023（令和 5）年 3 月

千葉市長 **神谷俊一**

～本計画のスローガンについて～

市民・事業者・市の3者がごみ減量の目的及び本計画の目標を共有し、お互いに協力して、ごみ減量及び再資源化の取組みを推進するために、以下のスローガンを掲げます。

減らそう 1人1日100g！ 止めよう 地球温暖化！

◎ごみの排出と地球温暖化について

日々の生活や事業活動のなかで排出されるごみを処理する過程で、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスが発生していますが、大気中の温室効果ガスの増加は地球温暖化につながります。

近年、地球温暖化の進行により、異常気象の増加、気温や海水温の上昇による生態系の変化など、多くの問題が発生しており、地球温暖化への対策を進めることが世界的にも喫緊の課題となっています。ごみを減らすことで焼却処理量の削減につながり、地球温暖化の進行を止める、または抑制することに貢献することができます。

◎1人1日100gとは

本市では、2021（令和3）年度の1年間に、資源物を合わせると約33万7千トンの一般廃棄物（ごみ）が排出されていますが、この量を市民1人1日あたりの量に換算すると947gとなります。

これを、2032（令和14）年度には約100g減らして850gにするというのが本計画の目標です。

なお、この「1人1日あたりの量」は、家庭から出るごみと事業所から出るごみを合わせたものです。市民、事業者、市の3者がお互いに協力して、目標の達成を目指していく必要があります。

100g減量するためには、今よりもごみを10%程度減らす必要があります。いきなり減らすことは難しいかもしれませんが、これは10年で達成する目標ですので、少しずつ取り組んでいくことで目標に近づくことができます。

次のページに取組例を記載していますので、できることから少しずつ取り組み、積み重ねていきましょう。

◎100g減らすための具体例

ごみの減量に向けて、みなさんに取り組んでいただくこと具体例は、以下のとおりです。もちろん、減量のための取組みはこれらに限りませんので、みなさんの生活環境に合わせてできることから取り組んでください。

生ごみの減量

- **食品ロスの削減**

卵1個が約50g、おにぎり1個が約100gです。「使いキリ」「食べキリ」を徹底して、食品ロスの削減に努めることが、生ごみの減量につながります。

- **水キリの徹底 ⇒ 約15gの減量** (※生ごみ水切りモニター事業【2018年度】の結果)
生ごみの約8割が水分です。水切り1回で約1割の減量ができます。水切りネットを活用するとともに、調理くず(皮・芯など)を濡らさない工夫をしましょう。

- **生ごみ減量処理機等の利用**

機器の種類や生ごみの投入量によって効果は異なりますが、生ごみ減量処理機等を利用することで、生ごみをさらに減量することができます。市では、生ごみ減量処理機等を購入した方に対し、購入費の補助を行っています。

プラスチックの使用削減

- **マイバッグ、マイトラリー、マイボトルの利用 ⇒ 約35gの減量**

レジ袋1枚が約8g、使い捨てスプーン1本が約4g、ペットボトル(500ml)1本が約20~25gです。繰り返し使用することのできるマイバッグ、マイトラリー(フォーク・スプーンなど)、マイボトルを利用することで、プラスチックごみを削減することができます。

- **詰め替え容器に入った製品の選択 ⇒ 約50gの減量**

プラスチック製のシャンプーボトル(500ml)の重さが約65gです。詰め替え容器に入った製品を選択することで、約8割のプラスチックを削減することができます。

- **店頭回収への協力 ⇒ 約15gの減量**

食品トレイ1枚は約5~20gです。「ちばルール」協定店等が行う店頭回収にご協力ください。

その他の取組み

- **電子サービスの積極的な利用や、簡易包装製品の選択 ⇒ 約30gの減量**

コピー用紙(A4)2枚で約10g、包装紙1枚が約20gです。紙の使用を見直すことがごみの減量につながります。

- **リサイクルショップやフリーマーケットの活用 ⇒ 約200gの減量** (ワイシャツ1枚分)

子ども用の服など、自分や家族は使う機会がなくなったけど、まだまだ使えるものはありませんか?リサイクルショップやフリーマーケット、また、スマートフォンで手軽に出品・取引ができる「フリマアプリ」なども活用してみましょう。

※市で行った調査の結果や、商品(容器等)の重さから減量効果を算出しています。ご家庭の状況や商品の大きさ・素材などで重さは若干異なりますので、目安として考えてください。

目 次

第1章 計画策定の趣旨	1
1 計画策定の目的	1
2 計画の位置付け	2
3 計画期間	3
第2章 廃棄物・資源循環分野における近年の動向と社会的課題	4
第3章 本市におけるごみ処理の現状と課題	13
1 ごみ処理の現状	13
(1) ごみ・資源物の排出状況	13
(2) ごみの排出方法及び収集方法	15
(3) ごみの処理方法	17
(4) ごみの減量、資源化の状況	20
(5) 温室効果ガス排出量	23
(6) 前計画における取組み	24
(7) 前計画の目標達成状況と今後の課題	28
(8) ごみ処理費用	34
2 ごみ処理の課題（本計画に求められる課題）	35
第4章 基本理念・基本方針	37
第5章 数値目標	43
第6章 目標の達成に向けた施策の展開	53
基本方針1 発生抑制（リデュース）・再使用（リユース）に向けた施策	53
基本方針2 再資源化（リサイクル）に向けた施策	69
基本方針3 ごみ処理システムの構築に向けた施策	86
第7章 千葉市食品ロス削減推進計画	99

第8章 計画の推進	110
1 市民・事業者・市の役割	110
2 計画の進行管理・見直し	112
参考資料	113

コラム 目次

SDGs とは	5
カーボンニュートラル・脱炭素社会の考え方	6
日本のプラスチックごみの有効利用状況	8
食品ロスの現状	9
古紙を取り巻く状況	10
2019年に発生した台風等への対応	11
新型コロナウイルス感染症の感染拡大とごみ量の変化	12
持続可能な社会とは	40
循環型社会とは	41
3Rとは	42
ごみ減量のための「ちばルール」	55
本市でのプラスチック分別収集及び再資源化の実施に向けた検討について	84
食品ロス削減にまつわる知恵	109

※文中で下線が引かれている用語は、巻末の「参考資料9 用語集」で詳しく説明しています。(記載例：廃棄物の処理及び清掃に関する法律¹⁾)

